



バリアフリー推進レポート



第7回山口県バリアフリー等地域連絡会議を開催しました！

バリアフリー等地域連絡会議は、平成22年度から中国地方各地でのバリアフリー化を推進する目的で各県において隔年で開催しています。

このたび、第7回山口県バリアフリー等地域連絡会議を下記のとおり開催しました。

【会議概要】

日時：令和5年10月31日(火) 14:00～16:00

場所：WEB形式(一部対面)で実施

- 議事：(1) 開会挨拶(山口運輸支局長)
 (2) 座長挨拶
 (3) 運営要綱の一部改正について
 (4) 第5回移動等円滑化評価会議中国分科会の報告について
 (5) 本省第10回移動等円滑化評価会議の報告について
 (6) 構成員のバリアフリーに関する取組状況について
 (7) 意見交換
 (8) 閉会挨拶
 (山口県土木建築部技術管理課長)

【構成員】

- 学識経験者
山口大学 大学院創成科学研究科
工学部 社会建設工学科 教授 榊原 弘之
- 高齢者・障害者団体
・一般社団法人山口県身体障害者団体連合会
・一般社団法人山口県視覚障害者団体連合会
・一般社団法人山口県ろうあ連盟
・一般財団法人山口県手をつなぐ育成会
・特定非営利活動法人山口県自閉症協会
・一般財団法人山口県老人クラブ連合会
- 施設設置管理者
・西日本旅客鉄道株式会社中国統括本部
・錦川鉄道株式会社
・公益社団法人山口県バス協会
・一般社団法人山口県タクシー協会
・山口県旅客船協会
・山口県旅館ホテル生活衛生同業組合
・山口宇部空港ビル株式会社
・岩国空港ビル株式会社
- 行政機関
・中国地方整備局企画部企画課
・中国地方整備局山口河川国道事務所
・中国運輸局交通政策部バリアフリー推進課
・中国運輸局山口運輸支局
・山口県土木建築部技術管理課
・山口県観光スポーツ文化部交通政策課
・山口県健康福祉部厚政課
・山口市都市整備部都市計画課
・山口市都市整備部交通政策課
・山口市健康福祉部障がい福祉課

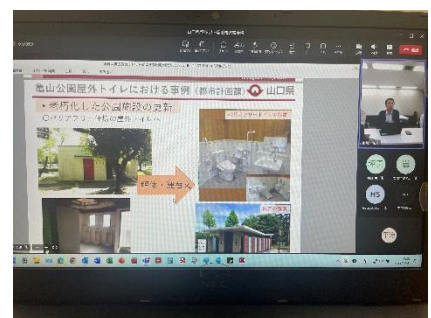
【会議の様子】



座長 山口大学大学院 榊原先生



山口運輸支局長 開会挨拶



構成員の取組報告

【構成員のバリアフリーの取組状況（概要）】

（ハード面）

- 山陽本線厚狭駅のバリアフリー設備整備推進。
（EV、内方線付点状ブロック、触知案内図、音響案内装置、多機能トイレ等）
- 北河内駅（錦川鉄道）に多目的トイレを設置。
- ノンステップバス：令和4年3月末現在で402両、導入率78.8%（全国第8位）。
- ユニバーサルデザインタクシー：令和5年3月末現在29社48台導入（対前年比1社7台増）
- 船舶のバリアフリー化状況：全船舶の半数程度がバリアフリー対応済だが、コロナ禍の利用者減少や燃料高騰により、新造船建造や既存船の改修が困難な状況。
- 空港の送迎デッキ出入口を自動ドアに改修。出発ロビーのソファの座面貼替。
- 南岩国駅周辺整備事業の道路整備、「道の駅」ゆとりパークたまがわのトイレ改修。
- 公園・アリーナ内のトイレバリアフリー化、バリアフリー仕様の県営住宅新設。
- 山口駅周辺地区バリアフリー基本構想に基づく特定事業の実施（61事業中、55事業完了）
- 山口市ユニバーサルデザイン推進検討会の開催。

（ソフト面）

- 全車両にミライロ ID ステッカー、ヘルプマークステッカーを掲出。（錦川鉄道）
- 路線バス内に県から配布されたヘルプマークステッカーを貼付。
- 障害者等専用駐車スペースを設け、支局構内に啓発ポスターを掲示。公共交通教室への講師派遣。
- やまぐち障害者等専用駐車場利用証制度。（令和5年4月～電子申請可能。）
- ヘルプマークの配布、普及啓発。やまぐち安心おでかけ福祉マップの掲載。
- 公共交通教室の開催。（バスの乗り方、車いす乗降など）交通系 IC カードの導入支援。
- 職員向け研修実施・障害の理解啓発（広報誌・WEB等）、市の窓口にコミュニケーション支援ボードを配布。
- 手をつなぐ育成会福祉・教育振興山口県大会を開催し、関係者と現状把握・協議を行った。
- 自閉症の子どもの作品展覧会や公共施設に対して啓発グッズを配布した。

【意見交換（概要）】（▶は回答）

- みどりの券売機プラスを利用する際に、オペレーターの待ち人数が多く、希望の車両に乗車することが出来なかった。介助者ありの場合も含め、券売機でスムーズに購入する方法を教えてください。
- 各駅の有人時、無人時の乗降支援の依頼方法について、掲示で知らせたり各障害者団体へ周知したりしていただけないか。キャンセルしたい時の手段も併せて知りたい。
 - ▶ JR おでかけネットで支援サポートの連絡先や、割引制度の案内等について掲載している。取組について HP やイベントで周知しており、今後も周知に取り組んでいく。
- みどりの窓口の多くが廃止となり、みどりの窓口がある駅まで出向き購入をしている。e5489にて障害者割引での購入が来年4月から出来ることになったが、高齢者には対応が出来ないので手話の出来るオペレーターで対応して欲しい。
 - ▶ 色々なことを試しながら、みどりの券売機プラスの機能強化を図ってきているが、現在手話を行えるオペレーターはいない。e5489は、2024年春から障害者割引の切符が買えるように展開する予定。

次頁に続く

- 電車やバス内での盲ろう者の通訳について理解がほしい。
 - バスの車内での盲ろう者の通訳について、乗務員の教育と一般の乗客に対する啓発という2つで進めていく。
- 夜行バスをネット予約する場合（予約サイトによっては）画面で障害者割引の申込ができない。
 - 会議後に対象事業者へ運輸局が意見を伝える。
- ヘルプマーク、ヘルプカードの活用状況・周知や啓発方法・認知度・メリットやリスクについてお聞きしたい。
 - ヘルプマークは累計5981個配布(平成31年3月～令和5年8月)、ヘルプカードの配布数は把握していない。周知方法について、県や市町村のHPや、チラシやポスターの掲示、公共交通機関等でステッカーの掲示をする等、県政番組でも積極的に広報している。認知度について、民間の調査で地方は首都圏に比べて認知度が低いというデータはあるが、県独自の調査は行っていない。ヘルプマーク・ヘルプカードのメリットやリスクの例について、県には特に意見は寄せられてないが、全国的にはヘルプマークをつけていたお陰で優しく声をかけてもらったという事例がある。一方で心無い声を聞かされたという事例を承知している。
- 多目的トイレに入る際、介助者が異性の場合に周りの理解が得られにくい事があり辛い。
- 多動の子供や小さい子供の安全のため、ガードレールをもっと増やしてほしい。
 - 通学路の点検は毎年、警察や教育委員会と行っており、必要な対応を考えている。構造的に設置出来ない場合等あるが、道路管理者に話していただき、状況を踏まえて、対応を考えさせていただけたらと思う。
 - 県では道路の幅がある程度あるような箇所は、歩行者や車両の数を勘案して、特に危険な箇所にはガードレールを設置している事例もある。一方で道路の幅が無いような箇所は、カラー舗装などの視覚により歩行者の通行する場所を明示して対応している事例もある。道路の実情に応じて関係者と話を進めていくやり方もある。
- 障害者割引の拡充をしていくためには、事業者のみに負担を強いるのではなく、国や自治体が事業者へ支援するなど検討すべき時期に来ているのではないかと。
 - 割引に対する国の支援についてはその財源も含めて、全国的な話でもあり、また、厚生労働省等他省庁の施策にも関連をされると思われるため、意見をいただいたことについて、国土交通省本省にも意見を上申させていただければと思っている。

【座長まとめ（概要）】

- バリアフリーを進めていかないといけない一方、交通事業者の経営環境も厳しくなっており、無人化はそういう流れの中でのことだと思う。利用者として理解すべきことは理解しないといけないが、利用者側としてはもう少し色々やり方があるのではないかと感じた。
- ネットで出来ることも色々増えてきているが、障害者割引のような証明を伴うような場合、なかなか完全にIT化ができていない部分があるのではないかと。
- MaaSという情報技術の導入には、全ての人が交通アクセスしやすくなるような、人に優しいシステムを、事業者や行政で目指していただきたいと感じた。